

2021 年度日本語教育学会春季大会

大会若手優秀発表賞（口頭発表） 受賞コメント

陸嘉良（東京工業大学・大学院生）

この度は「大会若手優秀発表賞」をいただきましたこと、大変光栄に存じます。

拙発表は、私自身の日本語学習者としての経験に基づいており、学習者の口頭発話に与える認知負荷の影響を探索的に調査したものです。具体的には、第二言語学習者の発話の流暢性の実態を把握することを目的とし、言語の習熟度および認知負荷の影響による、学習者による発話の流暢性の各客観指標の相違について実証的に検討しました。

実際の調査では、日本語学習者 36 名を対象とし、認知負荷については、発話課題の要素の増減および二重課題の有無を統制しました。質問紙および二重課題の結果から認知負荷を制御できたことが分かりました。発話の流暢性を分析した結果、認知負荷が上がった場合、学習者は発話速度のようなスピード流暢性に配分する注意資源を調節し、発話におけるポーズをとることや聞き手の理解を妨げないことに注意資源を配分して、流暢に話そうとしていることが分かりました。しかし、認知負荷が非常に高くなると、学習者は発話速度を調節するだけでは処理しきれなくなるため、ブレークダウン流暢性や修復流暢性に注意資源を配分する余裕がなくなり、ポーズの取り方や言い直しにまで影響が及ぶという結果が得られました。

第二言語発話課題における認知負荷の影響はこれまであまり注目されてこなかったのですが、認知負荷にも着目することで、流暢性の各構成要素の機能をより詳細に解明できると考えられます。そして、発話の客観指標を用いて認知負荷の影響を量的に示せたことは、今後の第二言語習得研究において、多少なりとも意味があるのではないかと考えております。

また、本研究は、私の研究活動において出発点となるものでもあります。そして、コロナ禍において通常の形態で研究が行えなくなった現在、このような形で評価していただけたことは、駆け出しの私にとっては、とても励みになる出来事でもあります。今回の受賞は、今後の更なる日本語教育研究への貢献を期待されている賞だと認識しております。今回評価していただいた研究を私自身の研究の土台とし、今後も妥協することなく研究を継続していく所存です。

最後になりますが、この度の受賞は、指導教員である佐藤礼子先生の厳しくも親身な指導なしには決して得られるものではなかったと思います。ありがとうございました。そして、調査に参加して下さった協力者の皆様に心よりお礼申し上げます。さらに、審査員の先生方、並びに発表を聞いて下さった皆様に改めて感謝申し上げます。ここに記して感謝の意を申し上げます。

*陸氏の 2021 年度春季大会における発表要旨は、[こちら](#)からご覧いただけます。



2021 年度日本語教育学会春季大会

大会若手優秀発表賞（ポスター発表の部） 受賞コメント

檜原ゆかり（早稲田大学人間科学研究科・修了）

今回の春季大会では、小学校の学校プリントにあるお知らせの内容を外国人の保護者が理解できるように、イラストに着目した研究を行いました。まず、学校プリントに書かれているイラスト数と、イラストとお知らせの内容の関連を調査しました。次に、イラストの有無や、イラストと文章の関連度合いによって、文章の内容の理解に差が出るのか、ミャンマー在住のミャンマー人を対象に調査をしました。その結果、文章の内容に関連したイラストがある場合が、最も文章の理解度合いが高いという結果となりました。特に、授業参観などミャンマーにはない行事では、イラストがあることでイメージをすることができ、より分かりやすいという結果が得られたという研究でした。



今回の受賞、大変うれしく思うとともに、身の引き締まる思いです。いままで、文字だけではなくデザインやイラストという面から、外国人の情報取得に貢献したいと思い、活動・研究をしてきました。今回大会若手優秀発表賞をいただき、活動や研究が、意義があり面白いものであると認めていただけたような気持ちで、大変うれしく思います。同時に、研究としてはまだまだ未熟な点がありますので、より精進していかなければと思っております。今は大学院を修了し働いておりますが、外国人の情報弱者に関する問題に対する活動や研究は続けていきたい、と改めて思いました。

今大会では、一人でも多くの方に、イラストひとつで外国人にとっては、理解において大きなヒントになるということを伝えられたらうれしいと思い、発表に臨みました。また調査中は、私はとても楽しくワクワクしながら研究を進めておりました。私が研究で面白いと感じた点も伝えたいと思っていました。本研究では、ただ調査をするだけではなく、自分が実際に活動したり、外国人保護者の声を聴くことが必要だと感じました。そのため、外国人向けのイラストの作成や支援活動などを行っていました。実際に私も動き悩むことで、研究だけではなく、自分も現場と一緒に解決しながら現状をよくしていきたいという思いで、取り組んでいました。

今後は「外国人の情報弱者の問題をデザイン・イラストの面から解決したい」という目標があります。今回、このような光栄な賞をいただいたことで、より思いが強くなりました。

私自身も活動して、ともに汗をかき学びながら、外国人にとって、昨日よりも少しでもいい環境を作っていけたらうれしいです。また、研究に関しては、まだまだ未熟な部分が多いです。研究も、もっと多くの方に認知・評価いただけるように精進してまいります。

ぜひ多くの方と関わり、研究や活動ができたらうれしいので、お声がけいただけますと幸いです。

*檜原氏の2021年度春季大会における発表要旨は、[こちら](#)からご覧いただけます。

*任意で、動画による受賞コメントもお寄せいただきました。[こちら](#)から視聴が可能です。